

5 こ団合同年間プログラムへの取り組み

Hyoutanjima B S Osaka 19/57/73/74/106

Hyoutanjimaとは、平成13年度からの「合同プログラム」へ参加をする各隊の指導者や団委員長さんの情報交換やプログラムの企画調整のためのメール広場のことです。

「Hyoutanjima@isize.egroups.co.jp」

平成12年9月5日 106団 植森隊長にて開設されました。

- 立案
- 12年3月～4月頃に「年間 5隊合同プログラム」をやってみようと話がまとまりました。
 - 12年5月～6月頃に「合同年間プログラム」作成。
 - 12年9月～15年9月までの予定（3年計画の予定）。
 - 12年7月 各隊、団委員長さんに理解を求めるための報告書作成（73団 中井隊長作成）。
 - 12年8月27日 各団の団委員長・隊長による最終的な打ち合わせ。
合同年間プログラムの各団における承認。

われわれの大阪第一九・五七・七三・七四・一〇六団のボーイ隊の隊長は、年間プログラムを五こ団で計画し、展開していくことについて議論をし合意している。その経緯は各団の団委員会にも連絡・報告をしているが、これまでの現場の隊長たちの議論と考え方をここにまとめて報告する。各隊の隊長・副長、各団の団委員長・団委員会の間で合同年間プログラムについての考え方をできるだけ合わせ、作業と展開をスムーズにし、各方面の理解と支援を受けたい。

魅力ある班対抗

言うまでもなく、ボーイスカウト活動の最大の特長は「班制度」と「進歩制度」である。とりわけ班制度は、班長を中心として班員たちが自分たちのことを自分で決める班自治を通じて、さらにそうした班が集まって競争をすることを通じて、スカウトが自分たちの力で学び成長していく、ボーイスカウトの特長で優れた教育システムである。我々隊指導者の仕事は、第一にスカウトたちの班自治を助けること、第二にスカウトたちが楽しみながら対抗意識をもつて挑戦することのできるような魅力ある班対抗のプログラムを提供することである。しかしながら、私たちの隊はいずれも、「魅力ある班対抗」プログラム・ゲームの最低条件である三こ班を編成することすら困難な状況である。つまり、自隊だけでは班制度・班対抗プログラムを満足に展開できていないのである。

これまでも私たちは機会のあるたびに、OSCAPやグリーンスピリットなど地区単位の行事を通じて、あるいはキャンプや運動会などで、複数の団の合同プログラムを展開してきた。この春に行われたグリーンスピリットのコンテストは、スカウトたちに班対抗のプログラムのおもしろさを分かってもらいたいと隊長たちが企画した。その結果、私たちはますます班対抗プログラムの充実の大切さを思うようになった。また、単発的な行事についても複数団の合同プログラムを実施してきた。スカウトも友団に友だちを持つこともでき、スタッフも多く集まることのできるのでプログラムの面でも充実ができたので、一定の成果をあげることができたとは思っている。しかしながら、お互いに面識のあまりないスカウトたちに本格的な班対抗意識を持たせることは難しい。魅力ある班対抗プログラムの提供という点から見ると、これまでの単発的な合同プログラムには限界があると考える。

そこで、私たちは年間を通じて合同プログラムを展開することを考えるに至った。面白い班対抗のゲームとプログラムのできる人数規模を確保すること、そしてそうしたゲーム・プログラムを継続的に繰り返すことで各班の班自治を確立し、班意識の高揚を図りたいと考えている。

スカウト、とりわけ班長が責任感を自覚してリーダーシップを発揮できるようにすること、そのためにはこの合同年間プログラムが必要なのだと思える。

合同年間プログラムの目的

合同年間プログラムの目的はおおよそ次の通りである。

Hyoutanjima プログラム H12.8~H13.8

- 12.8.19 Hyoutanjima 全体集会 (白峰会館にて)
スカウトたちに年間を通じてのニーズの出し合い
リーダーがまとめる
- 12.9.23~24 Hyoutanjima ケリパ・トレニグキャンプ
(貝塚ピクニックセンター)
- 12.10.29 スカウトピック (57.73.106.合同運動会)
(住之江養護学校グラウンド)
- 12.11.4~5 Hyoutanjima 新入歓迎キャンプ
(74団 狭山キャンプ場)
- 12.12.17 Hyoutanjima ハイキング
(堺市の横断) 1日雨でした
- 13.1.14 ボーリング大会 (19.57.73.合同)
(岸里ボウル)
昼から白峰会館にて救急法についての合同隊集会
内容: ショック・一般注意/止血法 73団の方が
講師をされました/三角巾を使つての応急
処置・ゲーム
- 13.2.18 Hyoutanjima B-P祭
(白峰会館にて) B-Pなべを作ろう
食材は各隊とも同一条件
1. BとPの付く物
2. スカウトのおきてに関する物
1~8まで8種類
- 13.3.10~11 Hyoutanjima トレーニングキャンプ
(74団 狭山キャンプ場)
- 13.4.28~30 Hyoutanjima スプリングキャンプ
(和歌山県日高郡由良町津久野 海岸でのキャンプ)
- 13.7.14~15 73団合同トレーニングキャンプ
(貝塚ピクニックセンター)
- 13.8.2~5 Hyoutanjima トレーニングキャンプ
(兵庫県由良町由良沖 成ヶ島)

●魅力ある班対抗プログラムのできるスカウトの人数規模を確保する。

●班対抗プログラムを一年間にわたって継続的に繰り返すことで(一回きりの合同行事ではないこと)、班対抗意識や班自治の意識を持たせることができるようにする。

●魅力ある班対抗プログラムのできるようにリーダーを確保しやすくする。

●なによりもスカウトはボーイスカウト活動本来のおもしろさである、班自治、班対抗をこれまで以上に楽しむことができる。

さらには次のような効果が期待できる。

●ベンチャー隊に上進したときに一緒にプロジェクトや活動をするような仲間ができる。

●ボーイ隊の活動が活性化することで、各団の上進率の向上が期待できる。

合同年間プログラムの手法

合同年間プログラムの手法は、隊長の間でこれからも議論して詰めることになるが、今までのところ団委員会に報告すべきことは、次のようなものである。

●年間プログラムの計画の時点から、スカウト・リーダーで合同で立案していく。

●行事だけではなく、場合によって(特にプログラムの企画に関わる)班長会議も合同で行う。

●各団の行事もあるので全ての隊集会を合同行事で行うことは不可能であるが、班対抗プログラムは基本的に五こ団の合同行事として企画・実施していく。

●合同行事はキャンプとハイキングが多くなると思われるが、それに限らず年間プログラム会議や合同の班長会議で出されたスカウト側のニーズに応えるために、さまざまな行事について合同で行う。

●それぞれの合同行事については、

必ず事前に隊長から団委員会に報告し、承認を求める。

●団委員会で承認を得られなかったプログラムに関しては、その隊は参加しない。

●事情によっては、五こ団全てではなく二〜三こ団の合同プログラムも行う。

夏のキャンプ

合同年間プログラムの最後の総まとめが夏の長期野営である。その長期野営は、年間プログラムの訓練の最終的な目標でもある。この合同長期野営は本格的な固定キャンプの楽しさをスカウトに知ってもらいたいので、できれば無人島で四泊程度の日程で行いたいと思っている。

まとめ

年間を通じて合同プログラムを企画して展開していく。スカウトの数に恵まれていない現状においては、私たち現場の隊長たちは、この方法によってしか今のスカウトたちにスカウティングの本当の魅力を伝えることはできないと考える。